<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	義務教育課

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【重点】教師の授業力の向上

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	64.0	66.0	68.0	70.0
現況値	60.4%	実績値	58.0			
目標値	70.0%	達成率（%）	90.6			
備考		達成度	3			

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	42.5	45.0	47.5	50.0
現況値	37.5%	実績値	38.3			
目標値	50.0%	達成率（%）	90.1			
備考		達成度	3			

指標名	全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	+1	+1	+1	+1
現況値	−1ポイント	実績値	±0			
目標値	+1ポイント	達成率（%）	−			
備考		達成度	3			

指標名	全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	+1	+1	+1	+1
現況値	+1ポイント	実績値	+1			
目標値	+1ポイント	達成率（%）	−			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・岡山県学力・学習状況調査
・学校経営力向上支援事業
・授業改革支援事業
・学校現場における業務改善加速事業
・教師業務アシスタント配置事業
・県立学校ICT支援員等配置事業
・部活動指導員配置事業

4 施策達成レベル

3.3	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

学校経営アドバイザー等による学校訪問を通じて管理職のビジョンと戦略を支援するとともに、授業改革推進リーダー・推進員の配置、全国及び県学力・学習状況調査結果の分析に基づく課題に焦点化した取組、教師業務アシスタントの配置拡充や部活動指導員等の活用による教員の負担軽減と学習指導時間の確保、全県立学校への保護者連絡システムの導入、専門的知識を有するICT支援員の配置及び臨時訪問支援による児童生徒1人1台端末の活用支援を行うこと等により、授業改善や校内指導体制の確立に取り組み、児童生徒への学習指導の充実を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、学校経営アドバイザー等による学校訪問を通じて、全ての小・中学校において学校経営アクションプランに基づいた組織的な取組を一層推進するとともに、岡山県学力・学習調査の実施時期を見直すことで、当該年度の取組の成果と課題を年度内に把握・分析し、つまずき解消に向けて短いサイクルでの授業改善に取り組む必要がある。併せて、授業改革推進リーダー・推進員の継続配置などにより、授業改善や校内指導体制の確立を図り、授業の質の向上に向けた取組を強化していく必要がある。

また、ICT支援員の業務内容を見直し、教職員に対する研修の実施やデジタル学習基盤の活用支援も対象とするなど、より実践的なサポート体制を構築するとともに、教員が教員にしかできない業務に専念できるよう、さらなる校務DXの推進や外部人材の確保をはじめ、大規模校における複数配置についても検討するなど、教師業務アシスタントの効果的な活用を図る。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	義務教育課

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【重点】PBL（課題解決型学習）の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	64.0	66.0	68.0	70.0
現況値	60.4%	実績値	58.0			
目標値	70.0%	達成率（%）	90.6			
備考		達成度	3			

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	42.5	45.0	47.5	50.0
現況値	37.5%	実績値	38.3			
目標値	50.0%	達成率（%）	90.1			
備考		達成度	3			

指標名	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	82.2	82.8	83.4	84.0
現況値	80.8%	実績値	75.3			
目標値	84.0%	達成率（%）	91.6			
備考		達成度	3			

指標名	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	81.2	81.8	82.4	83.0
現況値	80.0%	実績値	77.6			
目標値	83.0%	達成率（%）	95.6			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・おかやま夢発信・交流事業
・生徒会による「だれもが行きたくなる学校づくり」応援プロジェクト事業
・PBLガイドブックを活用した課題解決型学習の推進

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

小・中学生が地域の多様な「人・もの・こと」と関わりながら主体的かつ探究的な学習に取り組んだ成果を募集し、優れた取組を表彰する「おかやま学びたい賞」を実施するとともに、児童生徒が、自らの学びを客観的に振り返り、これからの学びに見通しを持ち、学ぶ意欲の向上を目指す、おかやま学びたい賞フォーラムを開催した。また、公立中学校の生徒会が自由な発想で行う自主的な企画による活動を支援し、中学生が自身の個性や創造力を伸ばす力を育成した。

6 今後の施策推進に向けての課題

児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、課題解決に必要な資質・能力を一層身に付けさせるため、自ら考え決定できる場面を積極的に創出していく必要がある。併せて、児童生徒が課題の解決に向けて探究サイクルを回しながら主体的に粘り強く取り組めるよう、多様な探究活動を適切に評価し、小・中学校における各教科の学びを起点とした主体的・探究的な学習の支援を充実させていく必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	高校教育課

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【重点】キャリア教育の推進

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	64.0	66.0	68.0	70.0
現況値	60.4%	実績値	58.0			
目標値	70.0%	達成率（%）	90.6			
備考		達成度	3			

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	42.5	45.0	47.5	50.0
現況値	37.5%	実績値	38.3			
目標値	50.0%	達成率（%）	90.1			
備考		達成度	3			

指標名	インターンシップや企業訪問等を体験した高校生の割合	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	90.8	92.2	93.6	95.0
現況値	87.9%	実績値	93.5			
目標値	95.0%	達成率（%）	103.0			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・おかやま夢発信・交流事業
・高等学校でのインターンシップ推進
・高校生キャリアサポート事業
・産業界と連携した「リアルな学び」推進事業

4 施策達成レベル

3.5	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

経済6団体との包括連携協定の仕組みも活用したインターンシップや企業訪問等の機会の増加、ジョブフェア等を通じて高校生に対して県内事業所等の情報を得る機会を提供したことにより、インターンシップや企業訪問等を体験した高校生の割合は増加した（2025年度：93．5%）。

6 今後の施策推進に向けての課題

高校生に対してさらなるキャリア教育の推進を図るため、県内各地区のインターンシップ、企業訪問受け入れリストを作成するなど、生徒が幅広く職業選択ができる仕組みを作る必要がある。また産学連携コーディネーターによる企業開拓を進め、学校と企業のマッチングを積極的に図る必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	義務教育課

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【重点】子どもたちの学ぶ力が伸びる仕組みづくり

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	64.0	66.0	68.0	70.0
現況値	60.4%	実績値	58.0			
目標値	70.0%	達成率（%）	90.6			
備考		達成度	3			

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	42.5	45.0	47.5	50.0
現況値	37.5%	実績値	38.3			
目標値	50.0%	達成率（%）	90.1			
備考		達成度	3			

指標名	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	81.9	82.6	83.3	84.0
現況値	80.4%	実績値	77.3			
目標値	84.0%	達成率（%）	94.4			
備考		達成度	3			

指標名	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	78.5	79.0	79.5	80.0
現況値	77.6%	実績値	78.3			
目標値	80.0%	達成率（%）	99.7			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・主体的な学びの基盤づくり事業
・生成AIを活用した学びのサイクル実証事業
・家庭学習指導の推進

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

公立小・中学校に支援員等を配置することにより、放課後をはじめ朝学習や休憩時間等の補充学習を充実させ、児童生徒の基礎学力や学習習慣の定着を図った。
また、モデル校3校において生成AIを活用した学習支援アプリを導入し、家庭学習における個に応じた学びを支援した。対話的に学習を促すことで、学習に苦手意識のある生徒が有用性を実感するなどの成果がみられたり、直接解答を示さない学習支援アプリの活用や、生成AIが出力した回答を鵜呑みにしないなどの情報活用能力の育成を図った。
さらに、家庭学習のスタンダード・増補版に基づき、初任者等に家庭学習に関する組織的な指導の徹底を働きかけるとともに、家庭に対しても、1人1台端末活用の視点も踏まえた家庭用資料を提示し、家庭学習の意義等について普及・啓発した。

6 今後の施策推進に向けての課題

生成AIを活用することが目的化している状況もあることから、生徒が生成AI活用を含む学習方略を身に付け、自らの学びを調整しながら学習できる授業づくりを推進する必要がある。
また、学力の定着が十分でない児童生徒の学習意欲の向上についても課題であることから、組織的・計画的に補充学習に取り組んでいる学校の好事例の情報発信を行うなど、引き続き、授業と補充・家庭学習を連動させた取組を推進する必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	教育情報化推進室

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【重点】情報活用能力の育成

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	64.0	66.0	68.0	70.0
現況値	60.4%	実績値	58.0			
目標値	70.0%	達成率（%）	90.6			
備考		達成度	3			

指標名	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	42.5	45.0	47.5	50.0
現況値	37.5%	実績値	38.3			
目標値	50.0%	達成率（%）	90.1			
備考		達成度	3			

指標名	「1人1台端末を授業でほぼ毎日活用している」と回答した学校の割合（小学校）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	73.0%	実績値	89.8			
目標値	100.0%	達成率（%）	89.8			
備考		達成度	3			

指標名	「1人1台端末を授業でほぼ毎日活用している」と回答した学校の割合（中学校）	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	63.9%	実績値	88.9			
目標値	100.0%	達成率（%）	88.9			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

・ICT活用指導力レベルアップ推進事業
・ICT活用による個別最適な学習推進モデル事業
・英語デジタル教科書活用実証研究事業
・スマホ・ネット問題総合対策推進事業
・県立学校ICT支援員等配置事業

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

デジタル学習基盤を前提とした授業改善を推進するため、主に県内の小・中学校、中等教育学校、義務教育学校の教員を対象とした「GIGA第2期の授業改善推進フォーラム」を実施した。加えて、月1回程度で「GIGA第2期の授業改善推進オンライン研修」を実施することで、県内の優良な実践事例の横展開を行った。また、希望する市町村教育委員会の指導主事及び教員を対象に他県先進校の授業等を視察する機会を設けるとともに、市町村教育委員会の要請に応じて実施する「キャラバン研修」を展開することにより、地域間におけるデジタル学習基盤の利活用の偏りの解消を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

教育現場におけるデジタル学習基盤の日常的な利活用については、各種研修の実施や優良な実践事例の横展開等により、着実に浸透しつつある。しかしながら、依然として地域間や教員間で活用頻度の差が見られることから、全体の底上げに向けた継続的な研修の実施が必要不可欠である。また、各教科等における1人1台端末の効果的な活用は推進されつつあるが、今後は、情報モラルやプログラミング、生成AIの利活用等を含む、情報活用能力を基盤とした質の高い探究的な学びの実現が求められており、更なる実践的な教員研修の充実が課題である。

＜様式2＞

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	義務教育課

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【推進】就学前教育の質の向上

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	就学前教育に関する研修への延べ参加人数	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	2,600	2,600	2,600	2,600
現況値	2,583人	実績値	2,616			
目標値	2,600人	達成率（%）	100.6			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

・就学前教育推進プロジェクト
・就学前の非認知能力育成支援事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

県教委に就学前教育スーパーバイザーを配置し、保幼小接続スタンダードの普及や各市町村における幼保小の架け橋期のカリキュラムの実施、改善支援を行ったことにより、県全体で保育の質の向上を図るとともに、幼保小の接続を推進した。
就学前の非認知能力育成支援については、就学前の子どもの非認知能力の伸ばし方を学ぶ講座を3市町村で開催し、延べ137名が参加した。また、指導者養成の研修会を開き、23名が修了した。

6 今後の施策推進に向けての課題

幼稚園教育要領等を踏まえた教育実践や、それを支える研修の形態等を工夫してより多くの参加を促すなど、幼児教育のさらなる質の向上と幼保小の接続の推進に向けた取組等の充実が必要である。
また、就学前の非認知能力育成支援については、引き続きプログラムを実施できる指導者を養成するとともに、養成した指導者による市町村での実施を進め、県内に広く周知していく必要がある。

<様式2>

2026年度　施策評価シート（2025年度実績）

1 評価施策名

担当部課室	高校教育課

重点戦略	Ⅱ　夢を育む教育県岡山の推進
戦略プログラム	学ぶ力育成プログラム
施策名	【推進】高等学校における学力の向上

2 生き活き指標（推進施策の指標）の進捗（達成）状況

指標名	学校の授業以外で平日に「全く又はほとんど学習しない」高校3年生の割合	年度	2025	2026	2027	2028
		目標値	11.5	11.0	10.5	10.0
現況値	12.2%	実績値	19.8			
目標値	10.0%	達成率（%）	58.0			
備考		達成度	2			

3 関連する事業名

・高校生の学力状況の分析
・「高い志」醸成プロジェクト

4 施策達成レベル

2.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して 施策達成レベルを算出

5 施策推進による主な成果

これまでの取組で整理された課題を踏まえ、「高校生のための学びの基礎診断」の結果を基にした各校の学力分析や合同分析会における県内外の好事例の共有、1人1台端末の活用推進、指導主事による学校訪問での授業参観、指導助言等の授業改善に係る取組を行ったが、授業以外で全く又はほとんど学習しない高校3年生の割合は、令和6（2024）年度と比較して増加した。

6 今後の施策推進に向けての課題

授業外における学習時間は、依然として二極化傾向にあり、基礎基本の定着に向けた学習時間の改善等において課題がある。また、学年進行に伴い、成績下位層が増え学習時間が短くなるなどの課題も見られることから、引き続き、合同分析会で各校の取組の普及や学力分析のフィードバックを行うとともに、指導主事による学校訪問の機会を活用して、各校の授業改善に係る課題を焦点化して共有し、1人1台端末活用事例集も活用した授業と家庭学習を一体的に考えた授業改善の取組を図っていく必要がある。加えて、成績下位層の増加についての改善に課題がある学校については、重点支援校として指定してPTを立ち上げ、指導主事による継続的な支援を行っていく必要がある。また、学校におけるSTEAM教育やPBLを推進することで、生徒の学習する意欲を向上させる必要がある。